

コラム 緑化植物 ど・こ・ま・で・き・わ・め・る

センダン (*Melia azedarach* Linn.)

池本省吾 (鳥取県林業試験場) ikemoto-s@pref.tottori.lg.jp



平家物語に出てくる有名なことわざ「梅檀(せんだん)は双葉より芳し」の梅檀は、インドに自生するビャクダン科の香木ビャクダンのことを指し、今回紹介するセンダンとは関係ないのだが、センダンの花にも独特の香りがある^{4,7)}。和名の由来には諸説あるが、千珠(センダマ)の意味で、実の付き方が数珠を連ねたように見えることによる説が有力である⁵⁾。古名アフチとして万葉集や枕草子にも登場するなど古くからなじみのある木である⁵⁾。

センダンはセンダン科センダン属の落葉高木で、伊豆半島以西の本州、四国、九州、沖縄、朝鮮半島南部、中国などの比較的暖かい地域に自生している^{1,4,7,8)}。日本海の海岸沿いのクロマツ防風林内陸側の日当たりのよい場所にも単木によく見られ、鳥取砂丘西端にある伴山国有林内には推定樹齢40~70年、400~500本程度の群落がある。大きいものでは高さ20m、胸高直径1mにもなり、国の天然記念物として徳島県の「野川の大センダン」、香川県の「琴平町の大センダン」の2本が指定されている。いずれも推定樹齢300年以上の大木である。成長が速く踏圧にもよく耐えることから、学校・公園の緑陰樹や街路樹として植栽利用されている⁸⁾。近年、短期間で成長して早期に活用が期待できる早生樹として、熊本県や兵庫県など西日本各地で植栽が行われている⁶⁾。

また、薬用としても利用され、乾燥した果実を苦楝子(くれんし)といい、樹皮からは苦楝皮(くれんぴ)がつくられ、以前は腹痛や虫下しの際に生薬として用いられていた^{4,5)}。

葉は互生し2~3回奇数羽状複葉で長さ30~100cm、葉柄は長く基部は肥大する。学名の「*Melia*」は葉の形が似るモクセイ科トネリコのギリシャ名⁵⁾、「*azedarach*」は高貴な木というペルシャ語にちなんでいる。材は木目がケヤキに似て美しく家具・器具材などに用いられる^{4,5)}。

新枝の葉腋に長さ10~15cmの円錐花序をつけ、多数の淡紫色の両性花を着生する⁴⁾。別名雲見草(花の咲いている様子を遠くから眺めると紫雲がたなびいているように見えることから)と称され⁵⁾、5~6月の開花期にはよく目立つ。果実は9~10月に黄色く成熟し毎年結実する^{3,4)}。

育苗は通常実生で行う。成熟した果実(核果)を採取し、1週間程度水に浸けた後、果肉を除去して長さ15mm程度の楕円形の核を取り出す。核内には1~6室あり各室に1個

の種子が入っており^{2,4,8)}、核が重く、サイズが大きいと内包種子数が多い傾向がみられた²⁾。核は非常に堅く、中から種子を無傷で取り出すのは困難であるため、核を種子として用いるのが通例である⁴⁾。種子の発芽型は2年型で、成熟の翌春または翌々春に発芽する⁸⁾。種子は乾燥すると発芽能力を失うか、発芽が翌々春になるので、とりまきするのが良いとされる^{3,7)}。自然落下した果実を時期を変えて採集し、果肉除去した核の発芽試験を行ったところ、3月採集・播種に比べて、12月採集・播種の方が10日程度発芽の開始が早く、最終発芽率も高かった²⁾。発芽は5月初旬から始まり7月下旬頃まで続いた。芽生えを7月初旬にポットに移植し、適量を施肥したものは秋には苗高50cm以上に成長した一方、無施肥ではほとんど成長しなかった。また8月中旬に移植したものは、施肥をしても全く成長しなかった。

実生以外の繁殖方法では、根伏せによる萌芽で苗木を作る方法が示されている^{7,8)}。筆者が3年生の苗木から採穂し、斜め挿しを行ったところ発根するものがみられたが、移植すると枯れてしまった。今後確実な無性繁殖法の確立が望まれる。

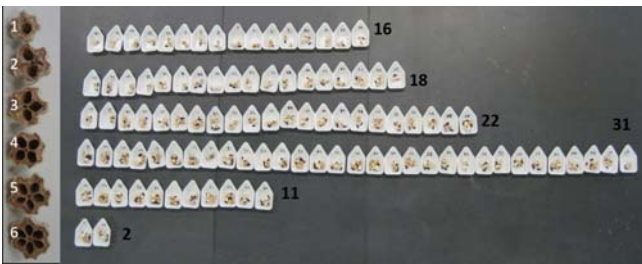
ちなみに筆者がクヌギの伐採跡地に設けた植栽試験地では、4成長期で樹高が7mに達したものもみられた。センダンのこのような旺盛な成長力が早生樹として期待されている。今後は用材生産に適した通直な成長を示す品種の開発が進められていくと予想される。

引用文献

- 1) 林弥栄(1969)有用樹木図説(林木編)。誠文堂新光社, 330 pp.
- 2) 池本省吾(2018)センダン (*Melia azedarach* Linn.) 核の形質ならびに発芽特性。日本緑化工学会誌, 44: 190-193.
- 3) 関西地区林業試験研究機関連絡協議会育苗部会編(1980)樹木のふやし方・タネ・ホトリから苗木まで一。農林出版, pp. 139-140.
- 4) 勝田 柁・森徳典・横山敏孝(1998)日本の樹木種子(広葉樹編)。林木育種協会, pp. 215-218.
- 5) 木村陽二郎(2005)図説 花と樹の事典。柏書房, pp. 252.
- 6) 熊本県林業研究指導所(2015)センダンの育成方法(改訂版)。熊本県林業研究指導所, pp. 1-17.
- 7) 林業科学技術振興所編(1985)有用広葉樹の知識-育てかたと使いかた-。林業科学技術振興所, pp. 300-302.
- 8) 山中寅文(1975)植木の实生と育て方。誠文堂新光社, pp. 158-159.



林縁で開花したセンダン (2017年6月撮影)



センダン核の内包種子数の比較

採集した果実から無作為に100個抽出して切断し、内包種子数毎に並べた。0個のものは無かった。



センダン芽生え (左: 複数発芽, 右: 1本発芽)

複数発芽したものは一番元気なものを残して間引く。間引いた芽生えもていねいに移植すれば正常に成長する。



施肥量の違いによる成長比較
使用した肥料: ハイコントロール 085



センダンを食害するゴマダラカミキリ

幹には多数の齧った跡が残る。地際部に産卵し幼虫がふ化後に幹内を食害する。